

岐阜城

THE CASTLE OF NOBUNAGA'S DREAM

信長の野望燃え立つ、金華山



観覧案内

岐阜城

平成27年6月現在

入場料(岐阜城資料館と共通)		開館時間	
大 人(16歳以上)	200円	年中無休 5月12日～10月16日	8:30～17:30
小 人(4歳以上16歳未満)	100円	10月17日～ 3月15日	9:30～16:30
団体割引 …… 30人以上2割引		元旦のみ	6:30～16:30
		3月16日～ 5月11日	9:30～17:30
※期間限定で夜間開館あり			

※次の方は、入場料が無料になりますので、手帳等をご提示ください。

- 1.身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳・療育手帳の受給者及びその介護者
- 2.70歳以上の方
- 3.家庭の日(毎月第3日曜日)に入場する中学生以下の方と同伴する家族の方
- 4.岐阜市内の中学生以下の方

金華山ロープウェー

ロープウェー運賃		営業時間	
大 人(12歳・中学生以上)	片道 620円 往復 1,080円	年中無休 5月12日～10月16日	8:00～18:00
小 人(4歳以上12歳未満)	片道 280円 往復 540円	10月17日～ 3月15日	9:00～17:00
		元旦のみ	5:00～17:00
		3月16日～ 5月11日	9:00～18:00
団体30人以上 大人1割引、小人2.5割引、中・高校生は大人運賃の2.5割引、他各種割引あり 期間限定で夜間営業あり(夜間往復割引運賃 大人900円 小人450円)			

上記の金額は消費税込のものです。



〈お問い合わせ〉

岐阜市観光コンベンション課 岐阜市神田町1丁目11 TEL(058) 265-3984
岐阜城 岐阜市金華山守閣18 TEL(058) 263-4853
岐阜市ホームページ <http://www.city.gifu.lg.jp>



略年表

時代	年号(年数)	西暦	城主名	備考
鎌倉	建仁年間	1201～1204	二階堂行政 佐藤朝光 伊賀光宗 稲葉光資	鎌倉幕府の軍事目的のため築城と伝えられる。 稲葉氏と改姓、稲葉山城と名付ける。
	正元年間	1259～1260	二階堂行藤	関市周辺に領地をもち、新長谷寺を再興する。
室町	応永年間	1394～1428	斎藤利永 斎藤妙椿 (長井新左衛門尉)	土岐氏の執権で城を修築する。文安2年(1445)加納城に移る。 応仁の乱で京都へ出陣。歌人としても有名。 道三の父親といわれる。
	天文年間	1532～1554	斎藤道三	天文18年稲葉山城を修築して入城。 (入城年については諸説あり) 天文23年鷲山城に移る。弘治2年義龍と戦い死去。
	天文23年	1554	斎藤義龍	永禄4年5月病死する。(34歳)
	永禄4年	1561	斎藤龍興 (竹中重治)	若年で跡を継ぐが、永禄7年2月竹中半兵衛重治によって一時占拠される。永禄10年8月織田信長に攻められ開城。木下藤吉郎功名する。
	永禄10年	1567	織田信長	尾張小牧から稲葉山城(のちの岐阜城)へ移り楽市楽座を保護するなど城下町岐阜の発展をはかる。天正4年には安土城に移り、天正10年本能寺の変で自害する。
安土	天正4年	1576	織田信忠	父信長の跡を継いで、岐阜の繁栄につくす。本能寺の変で二条城において明智光秀に攻められ戦死する。
	天正10年	1582	神戸信孝	信長の三男で伊勢神戸城から移り、天正11年秀吉に攻められ開城する。
	天正11年	1583	池田元助	天正12年小牧長久手の合戦で戦死する。
桃山	天正13年	1585	池田輝政	天正18年9月三河吉田城に移り、後に姫路城主となる。
	天正19年	1591	豊臣秀勝	秀吉の養子で羽柴姓を名乗り、文禄元年朝鮮に出陣し、唐島(巨済島)で病死する。
	文禄元年	1592	織田秀信	安土城から移る。慶長5年8月徳川軍に攻められ開城。
	慶長6年	1601		慶長10年5月死去。(26歳) 廃城となる。天守閣、櫓、石垣等を加納城へ移す。
江戸				城郭なし。
明治	明治43年	1910		模擬城建設。昭和18年2月焼失。
昭和	昭和31年	1956		現在の天守閣再建。
平成	平成9年	1997		再建以来初の大改修。
	平成13年	2001		築城800年を迎える。
	平成23年	2011		金華山一帯が「岐阜城跡」として、国の史跡に指定される。
	平成27年	2015		日本遺産「信長公のおもてなし」が息づく戦国城下町・岐阜が認定される。 ※第1号として18件が認定

岐阜城

信長公・道三公ゆかりの城

岐阜城は、かつて稲葉山城と称していました。金華山頂にはじめて砦を築いたのは、鎌倉幕府の執事二階堂山城守行政と伝えられています。戦国時代には、斎藤道三の居城でもあったところです。特に岐阜城の名を天下に示したのは、永禄十年（五六七年）（説に永禄七年）八月、不世出の英傑織田信長がこの城を攻略し、この地方帯を平定するとともに、地名も「井の口」を「岐阜」と改称し、天下統一の本拠地としてからでた。しかし、慶長五年（一六〇〇年）八月、関ヶ原合戦の前哨戦の際信長の孫秀信が西軍に味方したため、東軍に攻め入れられ、激戦の末落城しました。翌慶長六年、岐阜城は廃城となり天守閣、櫓等は加納城に移されました。現在の城は、昭和三十一年七月、岐阜城再建期成同盟によって復興されたもので、鉄筋コンクリート造り、三層四階構造で延べ四六・七七㎡、棟高二七・七mの威容を誇ります。城内は二階「武具の間」、三階「城主の間」、三階「信長公の間」となっており、最上階の「望楼の間」は展望台として多くの人に親しまれています。

平成二十三年二月七日、金華山二帯が「岐阜城跡」として、国の史跡に指定されました。

また、平成二十七年四月二十四日、「信長公のおもてなし」が息づく戦国城下町岐阜として日本遺産に認定されました。

■岐阜市指定史跡
本丸跡、二の丸跡、上格子門跡、馬場跡、織田信長公居館跡、御手洗池

天守からの眺望

岐阜城は現在築城されている城郭のうちでは、有数の高さ（標高三一九m）にあります。

最上階からは、眼下に鶺鴒で有名な清流長良川が市内を貫流し、東には恵那山、木曽御岳山が雄大な姿を見せ、北には乗鞍、日本アルプスが連なっています。また西には伊吹、養老、鈴鹿の山系が連なり、南には濃尾の大平野が豊かに開け、木曽の流れが悠然と伊勢湾に注いでいるさまを一望におさめることができます。かつてここで信長も天下を見晴らしたように壮大な眺望を楽しむことができます。また、岐阜城では夜景を楽しんでいただくため、期間限定で開館時間を延長しています。



岐阜城から長良川を望む



織田信長公



斎藤道三公

天文三年（一五三四年）尾張の織田信秀の次男として生まれ、幼名を吉法師・元服して上総介信長と名のりました。永禄十年（五六七年）稲葉山城を占領して天下統一の足場とし、城下町には「楽市楽座」を設けました。当時の岐阜の町の様子をポルトガルの宣教師ルイス・フロイスは「バビロンの賑わいのようであった」と述べています。天正四年（一五六六年）岐阜城を長男信忠にゆずり、自らは安土城へ移りました。天正十年（一五八二年）本能寺の変で倒れました。

道三が油売りの行商から美濃国へ来て、国盗りに成功した物語は余りにも有名です。しかしこれは、道三と父の長井新左衛門尉との事歴が重なっているといわれます。道三は美濃で生まれ、初名を長井（藤原とも）新九郎規秀と言います。長じて主家の斎藤家に乗取り、斎藤新九郎利政と称します。その後、守護土岐頼芸を追い、ついに美濃国の実権を握り、剃髪して斎藤新九郎入道道三と名乗りました。晩年、息子の義龍と不和となり、弘治二年（一五五六年）四月、十日長良川を挟んで戦い、敗死しました。

岐阜城パノラマ夜景（期間限定）



西側（長良川方面）



南側（名古屋方面）

岐阜城資料館

岐阜城のすぐ東に岐阜城資料館があります。昔の武器庫、食糧庫を隅櫓城郭造りに昭和五十年四月に復元したもので、内部には岐阜城関係の資料等を陳列しています。天下とりの夢が駆けめぐった戦国時代の歴史ロマンとも出会うことができます。



岐阜城のすぐ東に岐阜城資料館があります。昔の武器庫、食糧庫を隅櫓城郭造りに昭和五十年四月に復元したもので、内部には岐阜城関係の資料等を陳列しています。天下とりの夢が駆けめぐった戦国時代の歴史ロマンとも出会うことができます。